

学校だより 8月号

令和5年8月1日(火)

# 「誇・光・力」錦江中!



## 戦争について知る・考え・行動する

校長 平國 弘明

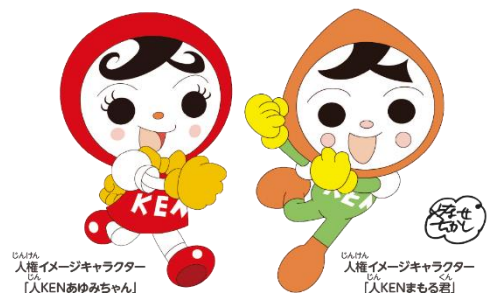
夏休みに入り、12日目。今日から8月に入る。8月と言えば、日本人として忘れてはならない日が巡ってくる。8月6日、9日、15日である。説明はいろいろなかもしれないが、6日は、昭和20年同日に広島に原子爆弾が投下された日、9日は同年に長崎に原子爆弾が投下された日、15日は同年、国民に敗戦が伝えられた日である。連日報道されるロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、アフガニスタン紛争、シリアやリビア、イエメンなどでの内戦、民族紛争など世界各地で争い事が今なお、続いており、尊い命や人類の遺産などが失われている。オーストラリアのシンクタンク「経済平和研究所(IEP)」によると、2022年に世界全体で紛争によって死亡した人の数はなんと約23万8000人に上るといふ。私たちは直接の被害を受けることはないものの、石油や小麦など生活に直結する物資の高騰の影響をかなり受けている。また、遠く離れた国や地域の出来事を対岸の火事と思ってはいけなない。日本周辺の状況の危機感が高まりつつあり、人的及び物的な対応が日々強化されている。

8月6日、9日、15日及び先の対戦が、現代を生きる我々を含めた日本にとって、どんな意味があるのか、紛争の要因は何か、どうすれば解決に近づくのか、自分には何ができるのかを調べたり、考えたりし、できることを是非実行してもらいたい。

## 人権同和問題啓発強調月間

鹿児島県では、8月を「人権同和問題啓発強調月間」と位置付け、様々な催しや啓発活動を計画している。県のホームページには、「部落差別(同和問題)をはじめとする人権問題を解決するためには、県民に人権尊重の理念が普及し、その理解を深めていくことが重要です。このため、県では8月を『人権同和問題啓発強調月間』と定め、この期間中に各種の啓発活動を集中的に実施します。全ての人の人権が尊重される社会づくりのためには、私たち一人ひとりが、自分の人権だけではなく、他人の人権についても正しく理解し、一人ひとりの多様性を認め合うことが大切です。この機会に、あなたの身近なことから人権について考え、そして行動しましょう。」と記述されている。

身近にどんな人権問題や差別があるのかを理解することや期間中に放映される関連番組やCMなどを視聴し、差別解消に向け、自分が何をすべきかを考え、実践していこう。



法務省 HP より

## 県総体に想う

7月22日から始まった県中学校総合体育大会(以下、県総体)。今年は、5競技に28名の生徒が参加した。地区総体後、それぞれ、レベルアップし、本番を迎えていた。陸上競技と卓球競技を観戦した。陸上競技は、今回、白波スタジアムではなく、隣の補助競技場での大会となった。当日(7/22)は、曇り空で日差しがあまりなかったものの、グラウンド内及び周辺はかなりの暑さであった。3種目(共通200m, 2年女子800m, 共通走幅跳)に2年女子2名が出場した。2人とも予選突破はなかったが、錦江中学校のユニホームを纏い、一所懸命な姿勢を示した。選手紹介や競技実況などで、「錦江中」の名も会場にアナウンスされた。悔し涙は見られたものの、堂々とした姿だった。また、卓球競技は2日間の日程(7/25, 26)で、団体戦、個人戦の順に行われた。団体戦は、北薩代表の宮之城中。北薩地区は今大会の第一、第三シード校のいる地区でレベルも高い。錦江中も肝属地区第三代表の意地をぶつけ、互角の試合展開。最終シングル戦まで纏れる。リードするも相手も引き下がらない。最後は、攻めに転じた相手に押し切られて敗れた。僅かな差ではあったが、やはり勝負事。勝ちと負けの立場は決した。2日目個人戦。1名が出場。初戦シードで2回戦から登場し、4回戦まで順調に駒を進めた。次戦は上位進出するためのヤマと予想された対戦。我慢比べと手の内の探り合いが続くジリジリとした試合。当然、先にミスした方が負けという展開。どのゲームもジュースを繰り返すなど大接戦。勝負はどちらに転ぶかわからない内容だったが、おしくも敗れベスト32で大会を終えた。この他、軟式野球競技(野球部田代・根占との合同チーム)が地区代表として、バドミントン競技、ソフトボール競技にはクラブチームの一員として参加した。ほとんどが厳しい地区予選を勝ち上がってきた選手で、改めて簡単な試合などはないと感じた。その競技に「必要なこと」が一番できる人が優勝を勝ち得るんだと感じた。「必要なこと」というのは、その人が生きてきた中で、身につけてきたものに他ならない。つまりは、誰にでも可能性が(県で優勝する)あるということである。なお、県代表となり、ソフトボールクラブチームに所属している2人が九州大会の出場権を得た。四国での全国大会を目指して、県代表としてがんばってきてもらいたい。



選手紹介や競技実況などで、「錦江中」の名も会場にアナウンスされた。悔し涙は見られたものの、堂々とした姿だった。また、卓球競技は2日間の日程(7/25, 26)で、団体戦、個人戦の順に行われた。団体戦は、北薩代表の宮之城中。北薩地区は今大会の第一、第三シード校のいる地区でレベルも高い。錦江中も肝属地区第三代表の意地をぶつけ、互角の試合展開。最終シングル戦まで纏れる。リードするも相手も引き下がらない。最後は、攻めに転じた相手に押し切られて敗れた。僅かな差ではあったが、やはり勝負事。勝ち

と負けの立場は決した。2日目個人戦。1名が出場。初戦シードで2回戦から登場し、4回戦まで順調に駒を進めた。次戦は上位進出するためのヤマと予想された対戦。我慢比べと手の内の探り合いが続くジリジリとした試合。当然、先にミスした方が負けという展開。どのゲームもジュースを繰り返すなど大接戦。勝負はどちらに転ぶかわからない内容だったが、おしくも敗れベスト32で大会を終えた。この他、軟式野球競技(野球部田代・根占との合同チーム)が地区代表として、バドミントン競技、ソフトボール競技にはクラブチームの一員として参加した。ほとんどが厳しい地区予選を勝ち上がってきた選手で、改めて簡単な試合などはないと感じた。その競技に「必要なこと」が一番できる人が優勝を勝ち得るんだと感じた。「必要なこと」というのは、その人が生きてきた中で、身につけてきたものに他ならない。つまりは、誰にでも可能性が(県で優勝する)あるということである。なお、県代表となり、ソフトボールクラブチームに所属している2人が九州大会の出場権を得た。四国での全国大会を目指して、県代表としてがんばってきてもらいたい。

## 国体炬火リレー 8/22 沿道での声援をお願いします

8月22日(火)は、かごしま国体かごしま大会の炬火リレーが行われます。炬火(きよか)とは、オリンピックで言う「聖火」にあたるものです。右写真の「トーチ」でリレーされます。「トーチ」には県鳥であるルリカケスと県花のミヤマキリシマがあしらわれています。既にマスコミで報道されているとおり、県内各地でこのリレーは始まっており、最終的には県内47市町村すべてで行われることになっています(期間:7/21~8/26)。錦江町では、総合交流センター前をスタートし、馬場・城元地区を周回する4.5kmのコースを走ります。本校からは全体の約7割を占める46名の生徒が走ることになっています。ちなみに大根占小が7名、神川小が9名、池田小1名、宿利原小1名の児童も一緒に走ります。当日、沿道での声援、よろしくお願いします。



かごしま国体・かごしま大会トーチ

## 錦江中第16回体育大会 9/10 日曜日

9月10日(日)は、錦江中学校第16回体育大会です。今年は、今のところ、入場制限を設けずに実施する予定です。是非、中学生のがんばりに声援をお願いします。